
三鷹どろんこ保育園

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10より100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中であげてくれる人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	運営理念、子育て理念、子育て目標は明確に示され、子どもたちのにんげん力をはぐくんでいます
	内容	どろんこ会グループの運営理念、子育て理念、子育て目標は明確に示され、「私たちが育てる6つの力」として、どのような保育活動によって子どもたちがその力を修得していくのか、入園時の資料「生活・遊び・労働を教えあう」に記載され保護者にわかりやすく簡潔に伝えています。スタッフに対してこれらの考えは、9月の法人全体研修で法人理事長から今後の方針などとともに説明があり、その後の施設長会議や策定会議などで園目標や今後の事業方針を具体的に示し、一貫性を持って子育て理念である「にんげん力」を育む保育の実現に取り組んでいます。
2	タイトル	プロジェクトチームを設置し、保育や業務の質を高めスタッフのスキルアップとなっています
	内容	課題解決をし保育や業務の質を高めようとするため、組織的な取り組みとしてプロジェクトチームを各リーダーを中心に設置し年間取り組んでいます。内容は内部監査プロジェクト、環境検討プロジェクト、SDGsプロジェクト、畑～食育プロジェクト、コンプライアンスプロジェクトの5つがあります。話合の内容を全職員で共有し、課題解決に向かうとともに、新しい取り組みに前向きなスタッフが多く、各プロジェクトで話し合いを進めて行く中で、スタッフ育成面の効果がでています。お互いに認め合い、助け合い、刺激し合ってスキルアップとなっています。
3	タイトル	静と動のメリハリを付けた生活を通して、子どもの成長をサポートしています
	内容	毎朝の座禅(1分ほど)や雑巾がけ、リズム体操、9時に散歩に出かける日課を大事にしています。毎日動き回るからこそ、「静」の時間を大切にしている座禅や、転んでも自分の体を支える徒手力を身につける雑巾がけ、身のこなしを柔軟にするリズム体操、日々の散歩の積み重ねにより長距離散歩を目標としています。裸足保育では足指で地面を支えることや、自力で木登りをし、飛び降りられるかの判断力を身につけ、けがをしない体作りなど一日の静と動のメリハリを大切に、活動と休息のリズムにより食事をおいしく食べることも身に付くようにしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園舎の環境改善として砂埃の吹き込みによりマットや床が汚れやすく対策を講じ、清掃の励行を期待します
	内容	園全体を大きなお家ととらえて、自由に行き来し遊びこめる環境設定を行っています。園舎は構造的に収納スペースがやや少なく、また、備え付けの収納用の箱や棚がないため、備蓄品や保育材料、保管書類、子どもの製作物などの保管場所の工夫が必要となっています。可能な範囲で不要な物を処分する事や、子ども一人ひとりの発達に応じた保育を実践できるよう、引き続き環境改善を期待します。戸外活動に力を入れている事もあり、1階保育室に砂埃が吹き込みやすいため、マットや床が汚れやすく、日々の清掃の工夫が必要だと思われます。
2	タイトル	他園にない経験を多くしているからこそ、保護者からの理解や協力が進むようにアプローチの方法を工夫していくことを期待します
	内容	保護者連絡用アプリのタイムラインでの発信や0、1歳児の「これまでの活動の様子」を写真にエピソードを添えて伝えています。具体的には朝の日課スタートの時間を前倒して霜柱を発見できたことを保護者にも喜びを共有し、登園時間を意識してくれています。3歳児からは家庭での会話を大切にするため、写真付きの子どものエピソードをタイムリーに園内に掲示したり、新型コロナウイルスの収束後は、保育参加者を増やし、子どもの様子を直接見たりすることで、さらに保育園への協力や理解が進むようにアプローチの方法を工夫することを期待します。
3	タイトル	園運営の方向性を示し透明性の確保につながる中期計画を明確にしてはいかがでしょうか
	内容	現状は事業計画書の中に「3か年計画の具体化」として、3年間にわたる年度別の目ざす姿とその重点施策が示されています。どろんこ会グループの理念実現へのステップをより明確にするため、この「3か年計画の具体化」を中期計画として理念などの実現にむけた複数年間の計画として位置付けてはいかがでしょうか。単年度事業計画書は中期計画と連動し策定していく事になります。中期計画の位置付けが明確になることにより、複数年通園する利用者に園運営の方向性を具体的に示す資料となり、また、理念・実現の道筋が明確になっていくでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	子育て支援センター「ちきんえっぐ」は、悩みやストレス解消の拠点となっています	
内容①	<p>子育て支援センター「ちきんえっぐ」が地域に開かれた拠点となるように専任担当者を配置し活動しています。内容は自然食堂、芸術学校、自然学校、寺親展、園庭・室内開放などを行い、毎週3日を基本に活動し「ちきんえっぐだより」に今月の予定、活動報告、イベント開催日や予約定員数を記載し周知しています。園ホームページへの掲載のほか、地域の方に知ってもらうためにパンフレットを散歩先で配布し、市のホームページにも掲載しています。今年度は700人を越える利用者があり、全職員が当園の大切な事業としてとらえ取り組んでいます。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	火、水、土で遊ぶ経験をすることで、自然との付き合い方を学んでいます	
内容②	<p>園庭は土の園庭で築山や丸太のいすがあり、季節ごとに野菜の栽培ができる畑や実を付ける木、木登りができる木、にわとりや虫など自然とかかわることが豊富にあります。季節によっては水を使い解放感溢れ、火起こしからたき火して火について知る、全身で土とのふれあいなどを経験をしています。また、子どもにとって魅力的な築山での遊びやどろんこ遊びは大人気です。保護者からは「どうしたらこんなに汚せるのか」とか「昨日は泥が落ちなかった」などの感想がありますが、子どもの楽しく活動している表情や成長を実感し見守っています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	子どもとの畑での労働や収穫の行程を喜び、クッキングに結びつけています	
内容③	<p>子どもたちと畑で野菜の栽培に力を入れ、その収穫物や季節のものでクッキングをしています。例えばトマトでケチャップ作り、旬の野菜をのせたピザ、夏野菜カレー、切り干し大根作りです。季節のクッキングとして芋煮や味噌、甘酒、梅干し、梅ジュース作りに悪戦苦闘している姿や楽しんでいる様子の写真がエントランスに掲示してありました。また、5歳児は毎日の献立をホワイトボードに書いて掲示しています。毎日の給食の食材の三色食品群のカードの説明をしてくれた子どもがいて、浸透している様子が伝わってきました。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表 コメント	グループ全体の理念や目標は、さまざまな取り組みにより関係者へ理解を深めています	
	「子育て理念」「子育て目標」「運営理念」を玄関に掲示し、園会議では勉強会や法人内研修で学んだことを伝え合い、理念や目標の実現を目指しています。9月の法人全体研修では法人理事長から今後の方針などの説明があり、その後の施設長会議や策定会議などで園目標や今後の事業方針などの理解を深め年間計画を策定していきます。新卒職員は、グループ他園でのOJT研修でさまざまな学びを得ています。保護者には、入園のしお리를ういて園見学時などに説明し、また、保護者懇談会や保護者参加行事でも理解を図るよう努めています。	
	施設長は子どもや保護者の気持ちに寄り添い、理念やビジョンの実現を目指しています	
	施設長としての役割や責任は理念やビジョンの実現と考え、策定会議などでスタッフの理解を深め、園目標や事業計画が連動し整合性あるものになっているか適宜アドバイスをしています。日々の保育においては「子どもの気持ち、保護者の気持ちに寄り添っているか」を自問し、子ども主体の保育を常に確認し、各職員が方向性を見失わないようにサポートしています。スタッフの中でもリーダー層は園運営全体にかかわり、職員育成のための役割を担っています。新卒スタッフに対しては子どもとのかかわり方など、保育の基本をていねいに伝えています。	
非 公表 コメント	検討すべき案件は各会議体などで検討し、園会議でコンセンサスを図り決定しています	
	園として決定すべき案件については、各会議体や委員会などで意見を確認し、園会議でそれまでの意見をまとめ検討し決定していきます。毎月第二火曜日に開催する園会議までに検討が必要な場合には、毎日の昼礼などでも検討する場合があります。決定に至ったプロセスなどは決定事項とあわせて会議議事録回覧や口頭伝達、連絡用シッターノートなどによって、スタッフ間で共有し、休んだスタッフへは個別に対応しています。保護者に対しては、お便りの配布や連絡用アプリで配信しています。お迎え時に改めて口頭で伝え、質問には随時対応しています。	
カテゴリー1の講評補足		

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
公表コメント	<p>どろんこ会グループ独自の利用者アンケートや面談などから、ニーズを捉えています</p> <p>保護者の意見は毎年9月頃にグループ独自の利用者アンケートを実施し、運営や保育全般についてのニーズを捉えています。また、面談は希望により随時を行い、懇談会は保護者からの意見を聞く場にもなっています。送迎時に気になる事を伝えてもらい、適宜アドバイスなどを行っています。連絡用アプリの連絡帳やご意見箱からも情報やご意見などを把握しています。職員からの意見は個人面談や各会議で把握し園会議、クラス会議、リーダー会議で検討しています。地域や福祉の情報は市園長会や法人施設長会議などで収集分析し、選ばれる園を目指しています。</p>
	<p>「3か年計画の具体化」として、年度別の目ざす姿とその重点施策が示されています</p> <p>毎年示されるどろんこ会の運営本部missionをもとに、園の策定会議などで子どものいきる力を育む取り組みについて検討し、実践的な事業計画書と事業計画に合わせた予算編成は施設長とリーダーが、全体的な計画と年間指導計画は保育士が中心となり策定しています。そして、事業計画書の中に「3か年計画の具体化」として、3年間にわたる年度別の目ざす姿とその重点施策が示されています。どろんこ会グループの理念実現へのステップをより明確にするため、この「3か年計画の具体化」を中期計画として計画体系に位置づけていくと良いでしょう。</p>
	<p>各会議体で進捗状況を確認し、業務の振り返りや自己評価を年2回行っています</p> <p>計画の実行には、職務遂行能力定義(求めたい水準)を定め、役割分担を明確にし、毎年新年度前のキックオフミーティングでスタッフ全員で策定した園目標や年間計画を確認し、日常の活動で気を付ける事をロールプレイ研修などを通して理解しています。月末には各クラス会議で振り返りと見直しを行い、その状況は毎週開催する学年週会議でリーダーが確認し、各クラスの状況はリーダー会議で共有していきます。内容によっては園会議で報告し進捗状況を把握しています。さらにスタッフは業務の振り返り、自己評価を年2回、9月と3月に行っています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ-1毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ-2毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ-3毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p>
公表コメント	<p>守るべき法、規範、倫理は、マニュアルやチェック表などで定期的に確認しています</p> <p>守るべき法、規範、倫理については、全スタッフに就業規則や保育品質マニュアル、社内報「創園」で示し、確認できる状態にしています。半期に一回、人権チェック表によって子どもの尊厳を守る保育が実施できているか自身で確認し、毎月の全体会議では冊子にまとめられたコンピテンシーの資料から質の高い保育活動を学び、専門職としてどのように業務にあたるべきかを理解していきます。情報セキュリティチェックやコンプライアンスチェックなども定期的実施し、全スタッフが保育活動において遵守した活動となっているかを確認し把握しています。</p>
	<p>苦情解決体制は施設長が解決責任者となり、解決や改善に向け速やかに対応しています</p> <p>苦情解決体制は、施設長が解決責任者となり、公正な判断をするため第三者委員の対応も行っています。受付方法は電話、口頭、メール、面談、ご意見箱などとし入園のしおりで周知しています。また、「苦情解決につきまして」という書面をリングファイルにして玄関に設置し、来園者がいつでも見られるようにし、ご意見やご提案を申し出る仕組みを伝えています。ご意見などが入った場合は内容を確認し、ご意見提案シートに記録し、解決や改善に向けての対応を本部担当マネージャーやスタッフと話し合い、具体的な解決策を見出し速やかに対応しています。</p>
	<p>保育空間は見通しが良く、不適切な言動と感じた時にはスタッフ間で指摘をしていきます</p> <p>スタッフの不適切な言動がないよう、毎年キックオフミーティングで子どもの人権について確認しています。4月と10月に児童・保護者の人権に関するチェックシートに基づき振り返りを行い、不適切な言動を見かけた場合はスタッフ間で指摘をする「注意しよう強化月間」を展開しています。虐待と疑われる情報を得た時には関係機関と連携し対応していきます。子育て支援の活動はホームページや各種お便りで発信し、実習生やボランティアの受け入れ、子育て支援拠点としてちきんえっぐカフェや園庭開放などの活動によって、園の透明性を高めています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p> <p>子育て支援センター「ちきんえっぐ」には2月8日時点で678名の利用者がありました。保育体験やちきんえっぐのすばらしい活動があまり知られていないので、広報活動に力をいれ、散歩先の公園などでパンフレットを配布するなど、積極的に働きかけています。地域の一員として認識されることは少子化の中でも安定した運営となると思われれます。どろんこ会グループの方針でもありますので、今後の更なる発展に期待します。</p>

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表 コメント	子どもの生命を最優先に考え、事故防止委員会は事例共有と再発防止を目的としています 子どもの生命を最優先に考えリスク対策を講じています。さまざまなケースを想定して地震や火災などの避難訓練を毎月、不審者対応訓練は年2回実施し、水の事故に対する訓練、SIDS防止の午睡チェックを徹底し行っています。けがをしない強い体づくりや、保育運営マニュアルを毎年5月までに全員が再読し、リスクマネジメント研修で危険察知能力を高め、事故防止委員会は事例共有と再発防止を目的としています。見失いや置き去り防止のため、人数確認リーダーをクラスに1名定め、戸外活動ではほかのスタッフとダブルチェックを実践しています。		
	「クライシスマニュアル」と「危機管理マニュアル」は、事業継続計画を示しています 2022年3月にどろんこ会グループの「クライシスマニュアル」を策定し、従来からの「危機管理マニュアル」と併せ大災害発生時の事業継続についての行動を示しています。どろんこ会グループと連携を取り、対策本部を設置しスタッフが仕事内容を分担し、対応ができるようにしています。「事故発生時対応フローチャート」を明示し、毎月の避難訓練は多様なケースを想定し、自主点検では避難用具や備蓄品などのチェックを行っています。保護者への周知は入園時に重要事項説明書で行い、必要に応じ連絡用アプリなどで行っています。		
	情報管理の体制は構築され、電子データは対策を講じたサーバーで管理しています どろんこ会グループで定めた危機管理や情報保護のマニュアルなどが整備され、情報管理の体制やルールが構築されています。情報はセキュリティ対策を講じたサーバーなどで管理保管され、個人のアカウントとパスワードを設定したパソコンを使用し、重要なデータには権限を持つスタッフだけがアクセスできるようになっています。グループからスタッフへ貸与した端末にはパスワードを設定し、写真データなどは使用後に削除するように定めています。個人情報に関する資料などは施錠できる書庫で保管し、規定の期間は整理保管し開示請求に対応しています。		
非公表 コメント	カテゴリ4の講評補足		

5		カテゴリ5	
5		職員と組織の能力向上	
		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
		サブカテゴリ2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p>
公表コメント	<p>採用活動はどろんこ会グループが行い、異動や配属も総合的に判断しています</p> <p>どろんこ会グループのホームページなどでは基本方針や特色、園の様子など写真を使用しわかりやすく伝え、採用情報も掲載しています。採用活動はグループが一括して行い、多様な媒体で告知し、就職フェアでは理念などを説明しミスマッチが生じないよう工夫しています。希望があれば園の見学をし、面接などを行い理念に共感した人材を採用しています。異動や配属は意向調査を実施し、運営部で意向、能力、成長への期待、各園の状況踏まえ総合的に判断し決定しています。リーダーの育成などで人材確保につながる取り組みも並行して実施しています。</p>
	<p>「人事考課制度」は、長期的な展望を描くことが可能な制度として取り組みを始めました</p> <p>2022年2月に発表された「人事考課制度」は、資格等級制度によって各等級ごとに求められる職務や職責が明示されています。人事評価については、目標管理シートによって事業計画とコンピテンシーブックに連動した取り組みが設定され、能力開発のための個別研修実施や評価結果により報酬が決定していくシステムとなっています。昇級するためには、スタッフが園やグループに対してどのように取り組み成果をあげるべきかも示されています。長期的な展望を描くことが可能な制度として、取り組みは始まり、2023年度中に移行完了となっています。</p>
	<p>各種研修受講や施設長との個別面談は、意欲や働きがいの向上につながっています</p> <p>研修受講を推進し、どろんこ会グループの保育の質を上げる会議には、期首に希望を確認し参加していきます。子育てスキル講座も実施されており、勤務時間外ですが、承認後に勤務形態を問わず参加し、受講後には園会議で内容を共有しています。キャリアアップ研修は該当者が参加しています。有給休暇取得や残業時間の削減などは主任が担当し、シフト作成前に希望を確認しできるかぎり反映できるようにしています。年間4回の施設長との面談により目標や評価、キャリアプランなどを話し合い、意欲や働きがいの向上につながっています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリ5の講評補足</p>

	カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリ1(7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	<p>前年度の重要課題は、「原点回帰をして、法人の基本活動である散歩、畑、リズム、雑巾がけなどの活動を充実するための見直しに取り組む」事としました。課題とした背景には、基本活動がどれも中途半端に行われており、職員の取り組みようとする意識とスキルに差があるため原点回帰し、あらためて取り組む事を目標としました。クラス会議、職員会議にて月1回程度、0～2歳児クラス、3～5歳児クラスともにリーダーを中心に生活時間帯の見直しを行い、なぜ取り組めないかの課題点を抽出。話し合いを行いながら少しでも取り組めるようにしていきました。取り組みの結果、0～2歳児クラスは音楽に合わせて体を動かすリズムを毎朝行えるようになっていきましたが、散歩は行けるようになったものの、9時の出発はまだできていない状態です。3～5歳児クラスはリズムは月1回の全体リズムのみで毎朝行うようにはなっていません。散歩は後半になると距離を意識して取り組めるようになっていきました。その結果、目標とした半分くらいは達成できたものの、まだ課題が残っている状態です。今年度においては、さらに全職員の意識を高め、引き続き取り組んでいます。</p>	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
	評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
	<p>職員アンケートを実施し振り返りをまとめ、課題は2022年度の会議の検討事項として取り入れ検証していくと、朝の散歩を始める時間が遅れる事が多く、そのため次の活動が順次ずれていく状態となり、時間を守るルールが機能していないことや散歩に行ったとしても散歩の距離が短く一定していないこともわかってきました。ぞうきんがけ、畑、にわとりなどの生き物の世話は用務の職員任せになってしまっていました。このような実態がわかった事により、2022年度はリーダーを中心にプロジェクトチームを発足し、全職員で目標達成に取り組んでいます。目的を理解し、ルールを守り活動に取り組み、子どもは生き物の世話や畑などに積極的に取り組みさまざまな関心が増えていきました。毎日の散歩の効果があり、体力や体感が強くなったと感じています。保護者に対して基本活動の内容などが伝わるよう連絡用アプリを使用し、毎日写真の発信したことで保育の様子や異年齢との交流がわかるとの声が出てきました。スタッフは理念をあらためて理解でき、自信になり達成感を味わっています。今年度においても継続して取り組み、スタッフのスキル向上により原点である基本活動の充実を目指しています。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>前年度二つ目の重要課題として、「地域の方が気楽に立ち寄れる、地域に開かれた子育て支援拠点の活動を発信する」としました。背景として、2020年度はコロナ禍であったため、来場者が少なく口コミも広がらず認知度が低い状況でした。どろんこ会グループの方針の実現に向け、地域子育て支援事業として「ちきんえっぐカフェ」を開設し、より多くの方に知っていただき、利用者を増やしていきたいと思目標にしました。また、三鷹市は子育て支援事業を推進しており、その利用者のニーズを受け止め、地域貢献に取り組んでいく強い思いがありました。散歩先で地域の方に会った時には、そのつどパンフレットをお渡しする事や、イベント実施では会場にパンフレットを貼り出す事などを実施しました。その結果、年度末には利用者数の増加となっていきました。最大の要因としては、利用した方々の口コミでの人気が出た事がありました。しかし、園見学にいらっしゃった方に「ちきんえっぐ」の事を聞くと、知らなかったとの回答が多いことから、まだまだ地域の方への周知は達成できていないと思っています。今後においては、引き続き子育て支援拠点を周知するさまざまな取り組みを展開しています。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>2021年度の地域子育て支援事業への累計参加者は400人を越え、振り返りを行いイベント内容によっての参加人数変化などを検証していきました。料理や製作の時には参加者が多い傾向があり、参加者からたいへん喜ばれ、リピーターが多く入園に至ったケースもあり、専任スタッフとの話などにより子育ての悩みやストレス解消となったなどの感謝の声が寄せられています。この状況は「市子育て支援センター会議」に園長と支援センター専任スタッフが出席し、振り返り結果を報告し、ほかの施設と情報交換を行いました。今年度も引き続き「地域に開かれた子育て支援拠点」を目標とし、毎月の園会議で活動報告を行い園全体で状況を共有し、いつ来園しても楽しい場所となるよう、保育室や園庭で在園児との交流を実施しここでしかできない遊びを行っています。そして活動内容の発信としてはポスターを掲示したり、散歩先でパンフレットをいつでも配布できるように散歩リュックの中に常備しています。今年度は累計700人の利用者となり大きな成果ができていますが、新たな具体的な取り組みとして、他の子育て支援施設と共同イベント開催、相互の施設紹介などの広報活動を実施していく事も目指しています。</p>	
<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページでは基本情報を掲載し、毎月のお知らせで保育内容を具体的に伝えています</p> <p>ホームページには運営時間、定員、アクセスなどの基本情報と事業内容や利用料金などを記載しています。お知らせとして「どろんこだより」や「食育だより」、「保健だより」を掲載し保育内容をリアルに伝えています。子育て相談や仲間作りの場として、子育て地域支援センターの「ちきんえっぐだより」も毎月掲載し、活動スケジュールを伝えてイベント予約を呼びかけています。利用希望者からの質問や問い合わせは、問い合わせフォームからできるようにし、また、採用情報を掲載し求める人材像、スタッフインタビュー、研修制度を周知しています。</p>		
公表 コメント	<p>独自の保育を活動や園の取り組みは、写真を使用してわかりやすく周知しています</p> <p>どろんこ会グループのホームページのコンテンツには、法人の紹介や施設一覧を記載し、「子育て理念」や「子育て目標」などを示し、実施している保育の特長や食育、地域と子育て、発達支援、身につく6つの力の詳細を掲載しています。さらに、保育活動の様子は写真を使用して、利用希望者にわかりやすく発信しています。定員の空き状況や地域子育て支援センターちきんえっぐのスケジュール、年間の利用者数の報告、感染症の情報は自治体と共有しています。子育て支援室のお便りは、必要に応じて自治体窓口や児童館などに掲示をしています。</p>	
	<p>利用希望者には、施設見学と保育活動や子どもの表情を見学する事を勧めています</p> <p>利用希望者からは電話やホームページのお問い合わせフォームで問い合わせがあります。園見学の場合は、希望する日時を確認し決定していきます。見学時間は、9時30分以降の見学でも可能ですが、その時間帯は全園児が散歩に出かけているため、子どもの様子を見られず15時30分からの見学を推奨し、保育活動や子どもの表情を見てもらおうようにしています。見学者への対応は主任が行い、子育て支援室でパンフレットを基にどろんこ会グループの理念や方針などを最初に説明し園内を案内していきます。その後支援室に戻り、質問を受けています。</p>	
サブカテゴリ1の講評補足		
非 公表 コメント		

		サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
	あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	
	あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	
	評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	
	あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリー2の講評			
公表 コメント	入園説明会にて園のパンフレットや重要事項説明書を説明し、同意書を交わしています		
	入園が決定した利用者には入園説明会の案内を送付し、面談前までに連絡用アプリから保護者情報や生育歴、既往歴、離乳状況などの必要事項を入力してもらっています。入園説明会では、施設長がパンフレットに基づき、どろんこ会の子育てや運営方針、理念、目標、園の保育の取り組み、園生活や保護者との連携、健康、安全、保育の時間と料金、予約などのルールの詳細を説明し、重要事項説明書を読み上げます。保護者は内容確認をしたチェックをし、同意の署名捺印をしていきます。特に、利用料金や延長保育申し込みはていねいに説明します。		
	入園後には保育時間を短くして子どもが安心して、徐々に馴染めるように配慮しています		
初めての集団生活に不安を与えないように、特に年齢が低い子どもの保育時間に配慮しています。泣きながらの登園や保護者と離れ際に泣いてしまう場合は、同じ職員が受け入れ、抱っこをして心の安定や愛着関係を結び安心できるようにしています。家庭から持ってきた愛用のおもちゃは、子どもの安心材料として認めて、徐々に新しい生活に馴染んでいけるように配慮しています。保護者と送迎時や連絡帳やタイムラインでの情報共有、必要に応じて個人面談を実施し、不安を解消して親子の安定を図り、集団生活に馴染めるよう取り組んでいます。			
転園や卒園児には園が戻ってこられる場所であることを伝え、継続的な支援をしています			
卒園児や転園児には、いつでも保育園に連絡をしたり来園してほしい旨を伝えて温かく送り出しています。新しい環境に対して不安があった場合、不安を受け止めてくれる場所であることを伝え、保護者の安心の手助けをしています。5歳児保護者の希望者には、就学前に個人面談を行い不安を解消できるように対応しています。入学式後にランドセルを見せに来てくれた場合には、いっしょにお祝いをしています。就学先の職員との引き継ぎは、ていねいに口頭と文書で行います。就学後も保幼小の連絡会で情報交換をすることもあり、継続的に見守っています。			
サブカテゴリー2の講評補足			
非 公表 コメント			

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

サブカテゴリ-3の講評

年間、月、週の計画は連動していて、養護と教育の両面を取り入れ計画を立案しています
全体的な計画作成において、どろんこ会グループの理念や保育方針を基に年齢ごとに養護と教育の各領域を取り入れて作成しています。特に「私たちが育てる6つの力」を在園中にはぐくめるように、環境や子ども一人ひとりの発達を踏まえて立案しています。3~5歳児は年間を通じて文字や数字や体操、音楽などの就学前教育を行います。年間計画は子どもの発達を見据え、0歳児は生理的欲求を満ちし愛着関係をはぐむこと、1歳児からは養護的な要素と5つの領域期に分けた内容を4期に分けて立案し、月間計画や週間指導計画に連動させています。

子どもの発達やクラスの様子を省察して次の計画作成に反映させています
次の計画は、指導計画の内容に合わせ、各クラス会議で期、月、週ごとに話し合い、子どもの発達やクラスの様子を踏まえて立案しています。週の見直しは前週の子どもの様子から判断して、次の週の見直しや活動に反映させています。毎日の計画は活動展開や環境構成および配慮その日の子どもの様子や保育士の配慮、省察を記録しています。子どもの日常の様子は保育日誌に記録しています。保護者への発信は連絡用アプリを使用し、時には写真を添えて子どもたちの生き生きとした表情やその日の活動の様子を視覚的に伝えるように努めています。

情報の変更は連絡用アプリの園児台帳や「シッターノート」などで共有しています
保護者の就労状況や生活状況に変化が生じた場合は、連絡用アプリの園児台帳にある保護者情報や緊急連絡先などに保護者が新しい情報を入力しています。その変更した内容や情報は、朝の引き継ぎやクラス会議、全体会議で全職員が共有しています。保護者からの情報と保育園からの連絡事項は「シッターノート」兼お迎え伝達ノートに記入して、全職員が確認するようになっています。周知漏れや伝達漏れをなくす仕組み作りとして、閲覧した職員は押印する取り組みをしています。指導計画や日誌などの子どもの記録物の内容もアプリで共有しています。

サブカテゴリ-3の講評補足

公表コメント
非公表コメント

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <div style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</div>
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
けがや疾病の発生時にはまず保護者に連絡し、適切な医療機関での受診をしていきます 保育中のけがや疾病の発生時には保護者にまず電話連絡をし、けがや疾病の様子を伝えかかり付けの病院などを確認していきます。同時に本部に報告をして嘔吐医の診察を受けて判断を仰ぎ、けがの種類により近隣の医療機関を受診していきます。医療機関での受診時には、主任が付き添い、入園の際に預かっている保険証や乳児医療証のコピーを持参します。緊急の際は入園の際に提出された緊急連絡先に順番に連絡をしていきます。万が一連絡が取れない場合は、重要事項説明に明記してあるように園の判断により、医療機関と連携を取り対処しています。	
子どものプライバシーを保護するパーティション設置などで羞恥心に配慮しています 水遊びやプール遊びの後の着替えは、縁側にパーティションを置きその中で体を拭いています。着替えは室内に入ってから行い外部からの視線を遮るように配慮しています。どろんこ遊び後のシャワーは、パーティションを置き周囲から見えないようにし、年齢が小さいうちから全裸にならないような着替えの仕方を指導しています。5歳児には保護者に確認を得て、人形を使っての性教育を行い、プライベートゾーンの大切さや命の大切さを知らせています。また、排泄の失敗の時は子どもの羞恥心に配慮して周りから見えないところで着替えをしています。	
自己チェックによって年2回確認し、子どもの人権を尊重した保育を行っています 全職員は年に2回、人権自己チェックを実施して子どもの人権尊重と自身の保育を振り返っています。異年齢保育の中でいっしょに手をつなぐのをいやがる子どもや、食事の場所に入るのをためらう子ども、食物アレルギーがある場合は友だちと食べられないことで残念がる子どもがいます。そんな時に職員は、子どもにどうしたいかを聞き、子どもの気持ちを尊重し一人ひとりに寄り添うようにしています。子どもの名前は敬称を付け、呼び捨てやあだ名で呼ばないようにしています。また、言葉遣いが気になる職員には、施設長が直接指導しています。	
サブカテゴリ-5の講評補足	
非公表コメント	

		サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	
	あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	
	あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	
	あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	
サブカテゴリー6の講評			
公表コメント	保育運営や保育の質のマニュアルを活用して業務の標準化を図っています		
	保育業務の標準化を図るために、どろんこ会グループ共通の保育運営マニュアルをはじめとして、衛生管理、感染症、虐待対応、保険、食育などのマニュアルがあり、事務室でいつでも手に取って確認できるようになっています。保育品質マニュアルは本部より毎年改訂され、全職員に配付しています。それを基に、年度末に全職員で読み合わせをして共通の理解と対応や安全で一定のサービスが提供できるようにしています。例えば散歩の時の配慮で、道路を歩いているときの最後尾の安全を図る場合の重要性などを共有しています。		
	日常の業務でとっさの判断が迫られる業務のロールプレイングを実施しています		
非公表コメント	保育品質マニュアルにあるけがや病気、衛生管理などのフローチャートは、業務中にもすぐに手に取れるようになっています。年度末には、保育業務上必要なマニュアルの読み合わせのほかに、汚物処理やアレルギー食、アナフィラキシーに対する補助治療剤の対応など日常の業務に必要なことをロールプレイングをして確認しています。事故防止や設備点検チェックリストを使用した定期的な点検を行うほかに保育内容や保育環境がマニュアルに沿っているか本部の内部監査室による内部監査を実施して、一定のサービスの標準化に努めています。		
	保護者や子どもの様子から必要なもの経験させたいものを検討し、業務に生かしています		
	毎年3月の全職員参加の策定会議では、提案がある職員は改善策としてまとめ、プレゼンテーションを行っています。子どもにさせたい経験や何が必要かを考え提案し検討したあと実施しています。その時以降も柔軟に対応し、1年目の職員からままごとコーナーの設定のアイデアが出され、新たな発見を取り入れて実践しています。行事の振り返りは、子どもの様子や職員の動きなどの改善案が有効となった気づきを全職員で共有し次年度に反映しています。保護者の意見や要望は、毎年9月頃に利用者アンケートを行い、改善策を検討しています。		
サブカテゴリー6の講評補足			

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評			
公表コメント	子どもが主体的に遊び、自分で考えて行動できるような環境設定をしています 「自分で考え行動する子どもを育てる」ことを軸に、水や土、火を利用した遊び、にわとりやかめの世話、野菜の栽培や収穫、クッキング、異年齢交流などさまざまな経験ができる環境を提供しています。園を「大きなおうち」と捉え、全職員が園児の様子を把握する努力をしています。職員は家庭との連絡帳のやり取りや保護者との会話などから子どもの24時間の姿を把握した保育を行っています。また、環境プロジェクトでは、職員間で園庭改良のアンケートを取り、子どもの興味関心の様子や発達を配慮した環境設定に取りかかっています。		
	異年齢の保育などを通じて、子どもがお互いの思いを尊重できるように見守っています 異年齢の子ども同士が手をつなぎ公園に行く途中に横断歩道を一緒に渡り、固定遊具の遊びでは「次に使っていいよ」と声をかけるなどの心づかいが見られ、年齢が大きい子どものリズム運動をいっしょにやりたがることや、雑巾がけのまねをしてかえる跳びのようになってしまうなど、大きい子どもへの憧れをもつ姿が感じられます。物の取り合いやトラブルを経験することは、感情抑制力や人と関わる力を育てることに繋がるため、すぐに大人が介入せず、お互いの思いを尊重できるように見守ります。発達の気になる子どもの動きを見守る姿もあります。		
	小学校との円滑な接続に向けての情報収集や、子どもへの適切な指導を考えています 施設長は自治体の幼小保連絡会に参加して、情報収集したものを職員と共有しています。必要な情報は保護者に知らせています。例年は子どもと一年生との交流が実施されていましたが、コロナ禍で職員同士の連絡会となっています。小学校との接点を作ろうという試みで運動会のリハーサルを見ることができました。5歳児は散歩時に小学校を通り期待を膨らませています。また、就学に向けて定期的にえんぴつの持ち方を練習し、文字を書くことや一定の時間座る体験をしています。また、時計の絵を貼り、時間の経過を意識できるようにしています。		
非公表コメント	評価項目1の講評補足		

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
	評価項目2の講評		
公表コメント	朝の受け入れの際は保護者から家庭での様子、体温を確認し、健康観察を行います		
	子どもの体温確認のほかに連絡帳アプリにて家庭からの連絡を確認し、保護者に家庭での様子や体調を聞き取ります。その内容は「シッターノート」に記載して共有しています。体調が思わしくない場合は保護者の希望により活動場所や、油物や牛乳を避けるなど体調に配慮した食事内容に変更することもあります。休日の翌日の視診は、よりていねいに体調や家庭での変化の有無を確認し、特に0歳児は健康状態やけが、離乳食の進行状況などを確認しています。子どもの全身状態の観察や家庭でのけが、傷は保護者に確認を取り職員で共有して保育しています。		
	子どもが身につけるべき基本的な生活習慣の手助けを保護者と共有して勧めています		
	食事や身の回りの基本的なことは、年齢によりできることから始めています。異年齢の子どもを通して学ぶこともあります。職員が側について正しい食具の持ち方やマナーを知らせています。箸の使用や食器の片付けなどは大きい子どもの様子を見まねすることがあります。トイレトレーニングは個人差があり、尿意の意思表示ができることや間隔が2時間空いたら開始の目安として家庭と連携を取り進めています。持ち物の整理や衣服の調節は、5歳児までの毎日の生活の繰り返しの中で徐々に身につくように援助や指導をしています。		
非公表コメント	子どもの一日の様子を口頭で伝えるほかにアプリの連絡帳や写真で共有しています		
	お迎えの際は「3分間対応」を励行して、3分を目安に保育園での子どもの様子をできるかぎり詳しく伝えるというどろんこ会グループの取り組みを実践に移しています。遅番の職員は振り返りや引き継ぎをていねいに行い、シッターノート兼お迎え伝達ノートを利用して日中の子どもの様子をわかりやすく伝えていきます。0～2歳児は担任職員が連絡帳アプリに記載して、子どもの生活や遊びの様子をていねいに知らせていきます。どろんこ会グループの「うちの子」アプリの中にあるタイムラインには全クラスのその日の活動がわかる写真を掲載しています。		
	評価項目2の講評補足		

	3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
	評価項目3の講評		
公表コメント	遊びたい相手や場所、内容を自ら選択できる環境設定の工夫をしています		
	環境プロジェクト委員会を立ち上げ、保育室や園庭の環境を見直しに取りかかりつつあります。園は「おおきいおうち」という考えで、年齢の違う子どもが園庭や保育室、園外活動で好きな友だちとお気に入りの場所で遊び、時にはくつろぎ、明日も遊びの続きができる環境を整えています。子どもの興味関心にアンテナを張り、働きかけたり見守る配慮をしています。1階と2階は自由に行き来できるようになっているため、子どもの移動は2歳児は名前付きのマグネット、3～5歳児も把握しやすいように色つきのマグネットで人数把握をしています。		
	感じたことや考えたことを体で表現したり、言葉で表現できる体験を増やしています		
	朝の会または帰りの会で、季節に応じた絵本や各年齢の興味に合わせた絵本の読み聞かせをしています。その経験が、お話しのおもしろさや言葉の楽しさと獲得につながり子どもの世界が広がります。その中から生活発表会の題材が決まったり、ごっこ遊びに展開して楽しんでいます。3～5歳児は当番が朝の挨拶をして、一日のスケジュールや2つの散歩コースを発表します。散歩コースを自分で選ぶことができます。友だちとの遊びや当番などでみんなの前で伝えることや話を聞く経験から、自分の意見や気持ちを自分の言葉で伝えられる子どもを育てています。		
非公表コメント	子どもの育ちを助けるために身近にある自然を大いに活用しています		
	散歩中に梅や菜の花を見て、春の訪れを感じることができます。そして、秋は散歩先でどんぐりやいちよう、色づいた落ち葉を拾い製作に活用します。冬は霜柱を見付け、季節ごとに身近な季節の変化を発見しています。園庭の地面は土で、木登りできる木や実を付けるびわ、みかんの木があり、四季を通して収穫を楽しむことができます。5歳児が中心でにわとりの餌やりをしている様子を小さい子どもたちが見て、畑では子どもたちが季節に応じて野菜を栽培して生長観察や収穫を楽しみます。園庭や散歩での虫探しでは図鑑を使って知識を広げています。		
	評価項目3の講評補足		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	子どもに必要なことや体験させたいことを全職員で考え、行事計画を作成します		
	年間の行事はすべての行事を白紙に戻し、目の前にいる「子どもたちに何が必要かを考え、体験させたい体験を行事に組み込んでいきます。日本の伝統文化の七夕や十五夜、節分などのほかに保護者参加の運動会や生活発表会、子どもたちのみで行うすもう大会の夏と春場所やどろんこまつり、マラソン大会、お店屋さんごっこ、手作り楽器演奏会などがあり、子どもの興味関心に沿って実施しています。食育も年間の行事として考え、0歳から参加して収穫した野菜でのクッキングや芋煮会、たき火をして行う焼き芋会などを楽しみ参加しています。		
	子どもの多くの経験は、「やったね」「がんばったね」などの達成感につながっています		
	運動会の0、1歳児の親子の競技や2～4歳児の徒競走、障がい物の競技では、できることを発揮し友だちの応援をしました。4、5歳児は動きを合わせたダンスができるようになり、勝ち負けへのこだわりが出るリレーでは、バトンの渡し方などを工夫してチームで力を出し合い、走り終わったあとにやりきった表情が見られました。生活発表会の題材は子どもが決め、自分の役も楽しみ友だちと一つのものを作り上げ、マラソン大会で最後まで走りきるなど達成感を感じています。焼き芋会のたき火の火起こし体験は、その後の遊びにつながっています。		
	行事の代替えや縮小など制約がある中、職員の工夫で子どもたちと楽しんでいきます		
	どろんこまつりは密を避けて2クラスずつの3部制で行いました。今年度は保護者の協力がない中、職員がワニを叩くゲームやヨーヨーすくいなどのブースを担当しました。マラソン大会では会場となった公園の周回数を数え、メダルを渡し表彰するなど子どもと職員で楽しんでいきます。以前は、保護者や近隣の方が参加していた芋煮会は、子どものみで行いました。行事までの取り組みは連絡帳アプリのタイムラインで保護者に知らせています。コロナ禍での行事は代替えや縮小のものが多くありましたが、次年度からは保護者参加に期待したいと考えています。		
非 公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	長時間保育の中で、子どもたちがゆったりと安心できる空間を作っています		
	各クラスに絵本コーナーを設置し、マットの上でくつろぐことができるようにしています。0、1歳児は夕方になると疲れが出て泣くこともあります。その時は抱っこやおんぶなどのスキンシップをしたり、夕寝を必要とする場合は静かな場所を確保して休ませるなどして安心して過ごせるようにしています。夕方の保育では、ごろごろしたり、リラックスできるように法人指定のマットを用意しています。雨天時は日中の保育で発散できないなどの状態も考えられるので、年齢により保育室を分けてそれぞれの遊びが保障できるように配慮しています。		
	コーナー遊びの工夫をして安全に遊び、それぞれが満足感が得られるようにしています		
	夕方の保育は16時30分より合同保育になり、1階の保育室で保育をしています。16時30分の時点は全園児が集まるため混雑します。走り回ることがないように遅番の職員が0、1歳児向けのコーナーと2～5歳児のコーナーに分けて設置し、一人でじっくり遊べるものや数人で遊ぶものなど、好きな遊びを選び遊び込めるような環境を設定しています。17時30分から18時15分がお迎えのピークで、18時30分過ぎに人数が少なくなった頃合いをみて一対一の遊びや新しい遊びを提供するなどして落ち着いて遊ぶことができるようにしています。		
非 公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	子どもの「おいしい」という笑顔がたくさん見られる食事を提供しています		
	季節やその日の天気と気温により縁側にテーブルをセットして食事をします。子どもたちは、座る場所を自分で選び、気の合う友だちと食べています。コロナ禍以前は、バイキング形式で食べられる量を自分で盛り付けて食べていましたが、現在は調理員が子どもの申告により量を調節して配膳をしています。訪問当日は0、1歳児はいっしょに食事をして「おいしい」と空になったお茶わんを上げて教えてくれました。担任職員のほかに調理員が配膳から終了まで楽しく食事ができるよう、子どもたちに声をかけてコミュニケーションを取っています。		
	食物アレルギーをもつ子どもへの対応では、細心の注意を払い提供しています		
	食物アレルギーをもつ子どもへの対応に関しては、入園の際に除去食申告書をもとに保護者と調理員、施設長、担任が同席し面談をして除去の仕方を説明しています。その内容は全職員が共有してアレルギー食材と提供方法を確認しています。給食は個別のトレーに配膳し、食器は他児と異なるものを用意して、トレーに顔写真と除去の食品が明記されたものを載せています。提供時は調理員と配膳する職員が声出し確認をし、テーブルに付いている職員にも声出し確認をして誤配や誤食を未然に防ぐように細心の注意をして提供し、食事の様子を見守っています。		
非 公表 コメント	野菜の栽培やクッキング活動など全園児がかかわれる活動をしています		
	一年間を通して畑で野菜を栽培して「畑仕事＝労働」として水やりや草むしりをして生長を楽しみ、収穫しています。畑の野菜を使ってピザやケチャップ作り、夏野菜カレー、切り干し大根作りなど、多くのクッキングを行っています。朝のお手伝いとして給食食材の野菜洗いや皮むきなどの活動も入れることで野菜への関心を高めています。0～2歳児は根菜の茎を使い、水耕栽培をして身近に観察できるようにしています。エントランスホールにその日の給食に使用する食材の絵カードを3色食品群に分けて、視覚的にもわかりやすく展示しています。		
評価項目6の講評補足			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評			
公表 コメント	自分の体を守ることに関心を持てるよう、年齢により柔軟な対応と指導をしています		
	保健計画を基に子どもの健康や安全を守る指導や援助を実践しています。例として、正しい手洗いの方法を知らせると同時に、手を洗うことを意識しやすいタイミングを図るようにしています。戸外遊び後は保育室に入る前に手洗いを促します。手洗いの必要性は言葉で説明する以外に絵本などを利用してわかりやすく指導しています。裸足保育で足指で地面を捉える力を育て、毎日の日課の座禅や雑巾がけ、リズム体操、散歩などで静と動のメリハリをつけた保育を実践して、けがをしない強い体と健康につなげた実践を日々継続して行っています。		
	感染症や病気などの情報は、保護者と連携を取り合うようにしています		
	季節ごとに流行する感染症は、毎月発行される保健便りにて情報を提供しています。園内で感染症が発生した場合は必要に応じて玄関に掲示し、家庭と園が共有している保護者用連絡用アプリでも情報を共有しています。子どもの健康状態は朝の受け入れで保護者から口頭で家庭の様子や睡眠、食欲などの状況を聞いて把握しています。また、乳幼児突然死症候群の防止のため体位確認をして仰向けに寝かせる、布団や毛布が顔に掛かっていたら直す、胸に手を当て心音確認、鼻や口で呼吸確認の実施、うつ熱予防の確認のチェックをしてアプリ上で管理しています。		
非 公表 コメント	自分の体を知り、守るための性教育を行っています		
	5歳児を対象に「自分の体を知り、守るための性教育」を行っています。社会の理解やさまざまな課題を踏まえ、保護者の理解と了解を得て実施しています。幼児期は「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」「なんで女の子にはおちんちんがないの?」など自分や友だちの体に興味が出て来る時期です。きちんとプライベートゾーンを知って守ることや、命の誕生を知ることで自分や友だちのからだを大切に感じられる子どもになってほしいと願い「体の不思議さと大切さ」「大きくなった喜び、命の誕生」を人形を使い学んでいます。		
評価項目7の講評補足			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	保育園と家庭の情報は保護者連絡用アプリで共有しています		
	当園は保育園の様子や家庭での状況を、相互に連絡し合うための保護者連絡用アプリを使用しています。0～2歳児は連絡帳機能により、日々の子どもの状況を保護者と交換しています。全クラス日々の活動の様子がわかる写真を閲覧できるようにしています。また、パソコンや携帯電話から24時間、保育の予約時間の変更ができます。当日の急な残業などでの延長保育申し込みは、電話で申し込み可能です。夕食の提供は当日の16時までの申し込みであれば追加できるシステムになっています。このように保護者の日常に寄り添うシステムを構築しています。		
	一日の様子は「3分間お迎え対応」や連絡帳アプリを使用しています		
	お迎えの際は「3分間お迎え対応」で、保護者にていねいに子どもの様子を話して、保護者の思いに寄り添うようにしています。連絡用アプリの連絡帳に保育園の様子を記載して、「タイムライン」には保育の様子の写真を掲載しています。年2回の保護者会は、一年間の保育や子どもたちの様子、自己紹介などをして保護者間の交流をしています。保育参加や個人面談の利用者は少ないですが、職員と保護者がつながりを深める機会にしたいと考えています。地域とのつながりを含む、子ども服のリサイクル「勝手かご」を設置して保護者も利用しています。		
	保育園の活動を知ってもらい、子どもの成長を喜んでもらえるように工夫をしています		
	どろんこ祭りの「どろんこサポーターズ」としての保護者のお手伝いは、新型コロナ収束後は活躍してもらおう予定です。運動会当日の姿から成長を喜び、11月の保護者会では運動会までの過程を伝えて子どもたちのがんばりや成長を再確認しています。生活発表会は保護者の協力の下、入れ替え制で行い言葉や歌、踊りなどで表現する姿を見てもらいました。また、廊下には子どもたちの成長の様子がわかる食育の様子の写真や制作物を貼りだし、保護者に楽しんでもらっています。人気レシピの献立表は玄関に置き、自由に持ち帰りできるようにしています。		
非公 表 コメント	評価項目8の講評補足		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	コロナ禍のため地域の交流には制限はありますが、できることから進めています		
	系列の保育園の5歳児同士の交流は、コロナ禍のためオンラインで交流をしています。その中では好きなものや好きな遊びの紹介を申し込みました。地域交流計画では小学校との定期的な交流を計画しましたが、授業見学や一年生との交流はできず、運動会のリハーサルは見学することができました。商店街ツアーや高齢者施設との交流はコロナ禍のため見送っています。しかし、運動会は小学校を借りて実施したり、消防署で消防自動車に乗せてもらったり、5歳児が地域の銭湯を利用するなど、かぎられた枠の中で地域との交流に努めています。		
	今後も保育園以外の方との交流を計画して、子どもの世界を広げていく予定です		
	コロナ禍前の行事は、地域の方や保護者を招待して楽しむ行事でした。恒例のどろんこ祭りは職員と子どもたちのみで楽しみました。行事での交流以外には、夏休みや冬休みを利用して小学生や中高生のボランティアが子どもたちと交流をしてくれています。また、入園を考えている親子が保育体験をしたり、子育て支援室の利用者の親子が在園児といっしょに水遊びをする交流がありました。コロナ禍が収束した場合は、地域の方を行事に招待したり、商店街ツアーやほかの施設との交流などでこれまで行っていた、たくさんの地域交流をしたいと考えています。		
非公 表 コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している77世帯を対象に調査を実施しました。在園児は98名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	98		
利用者家族総数(世帯)	77		
共通評価項目による調査対象者数	77		
共通評価項目による調査の有効回答者数	58		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	75.3%		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が24人(41.4%)、「満足」が29人(50%)で「満足」以上の回答は合計53人(91.4%)でした。

自由意見には、「いつも熱心に保育をしてくださり、感謝しかありません」「子どもたちにとってベストな保育を心がけてくれる園なので、とても感謝しています」「子どもの意思を尊重しつつ、集団で過ごす楽しさ、季節感などを、園生活の中で感じられる配慮がなされています」「子どもの独創性、自主性が最大限に引き出してもらえる素晴らしい教育方針だと思います」「自然の中で過ごす場面が多く、日頃家庭ではできない経験ができます」「明るくて活気があり、毎日楽しく過ごしています」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で98.3%、「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」で96.6%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で94.8%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が見取れます。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	2	0	1
「はい」が94.8%、「どちらともいえない」が3.4%、「無回答・非該当」が1.7%でした。 自由意見には、「新しい遊びを覚えたり、異年齢の子とのかかわり方を知ったりと、いろいろなことを経験して、新しいことに積極的に挑戦していると思います」「行動や物事に対するリアクションから、この保育園に通っていないければ、身につかなかったであろう姿が見て取れます」「とても成長を感じます。いつも本当にありがとうございます」「裸足保育、十分な戸外活動で、病気に負けない体づくりを日々実感しております」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	55	3	0	0
「はい」が94.8%、「どちらともいえない」が5.2%でした。 自由意見には、「子どもの興味をよく理解していただいていると思います」「新しい遊びや、楽しい手遊び歌など、たくさんの工夫をしてくださるおかげで、家でも楽しそうにやってみせてくれます」「外あそびや、さまざまな公園に歩く機会が多いと思います」「楽しい取り組みがたくさんあって、保護者もいっしょに楽しめています」「自然遊びや料理など、いろいろな体験をさせてくれます」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	1	1	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が1.7%、「いいえ」が1.7%でした。 自由意見には、「いつもおいしい食事をありがとうございます」「ヘルシーな食事で、野菜嫌いを克服できました。おやつも、自然な甘さを意識しているようです」「食育にも力を入れていると思います。離乳食も親身に進めてくださいました」「家での食事は食べむらがありますが、保育園の食事はいつも完食・おかわりをしています。栄養もたっぷり、ありがたいです」「おやつにおにぎりが出るのが多く、とても良いと思います」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	57	1	0	0
<p>「はい」が98.3%、「どちらともいえない」が1.7%でした。 自由意見には、「特に泥んこ遊び、鶏の世話などはよいと思います」「どんぐりや落ち葉、お花など、季節のものを知るきっかけになっています」「消防署に連れていってくれて、消防士さんと交流をしているようで、大人との触れ合いも学んでいます」「散歩の機会が多いのは、ありがたいです」「畑、生き物の飼育が良いです」「銭湯に行ったり、梅シロップの材料を買い物したりと、日本の日常や社会について触れる機会があります」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	54	2	0	2
<p>「はい」が93.1%、「どちらともいえない」が3.4%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「アプリで延長ができ、かなり助かっています」「遅くなる場合も、早くお迎えに行きたい場合も、快く受け入れてもらっています」「とてもよく対応をいただいています」「いつも快く対応してくれ、感謝しています」「柔軟に対応していただいた上、親の仕事や体調にまで気づかって、声かけをしてくださいます」「そのような状況になったことがありません」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	22	3	1
<p>「はい」が55.2%、「どちらともいえない」が37.9%、「いいえ」が5.2%、「無回答・非該当」が1.7%でした。 自由意見には、「門が壊れた時も、人を配置するなど、安全管理に気を配っていました」などの声がありました。 その一方で、「道路への飛び出しに注意が必要です」という意見もありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	7	2	0
<p>「はい」が84.5%、「どちらともいえない」が12.1%、「いいえ」が3.4%でした。 自由意見には、「年度始めに配布される年間行事スケジュールと、大差なく開催されます。持ち物も、余裕をもって案内をされるので、焦らずに用意ができます」「避難訓練や懇親会なども仕事に影響がなく、助かっています」「保護者の都合にあわせて実施してくださっています。おかげで両親共に子どもの育児に参加できています」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	43	13	2	0
<p>「はい」が74.1%、「どちらともいえない」が22.4%、「いいえ」が3.4%でした。 自由意見には、「何かあるとお声かけさせていただきますが、いつも快くご対応をいただいております」「連絡帳に相談事をすると、帰りの伝達の際にわざわざ担任の先生が来てくださり、口頭でお話をしてくれます。とても安心できます」「担任の先生は気軽に話せる雰囲気があり、安心して預けられます」「面談希望にも、快く応じてくれます」などの声がありました。 その一方で、「先生によります」という意見もありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	46	11	1	0
<p>「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が1.7%でした。 自由意見には、「コロナ禍であまり中まで立ち入りませんが、玄関や階段もいつも整理整頓されていて、気持ちのよい空間になっています」「整理整頓はされていますが、園の方針からやむを得ず、床などは汚れています」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	47	11	0	0
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が19.0%でした。 自由意見には、「とてもよく、ていねいに見てくださるのが伝わってきます。お迎えの際に、今日の様子を教えてください、ありがたく、お迎えがとても楽しみです」「いつも気持ちよく挨拶してくれる保育士さんばかりで、とてもよく対応をいただいています」「日頃から、先生方の連携が素晴らしく、どの先生とお話をしても方向性が一致されていて、安心して預けられます」「先生方が皆明るく、子どもの目線で話をしてくれます」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	5	2	0
<p>「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が3.4%でした。 自由意見には、『熱は出ていないが、いつもよりもぐったりしていた』、『ここに傷ができています』など、気づいたことを伝えてくださっています」「ちょっとしたけがで過大な対応をしてくださる時もありますが、保育園でけがをして数日経ってから、ご家庭でのけがですか？と聞かれたことがありました」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	41	16	0	1
<p>「はい」が70.7%、「どちらともいえない」が27.6%、「無回答・非該当」が1.7%でした。 自由意見には、「どういう流れでけがをしたのかを教えてくれるので、よく見てくれていると思います」「どんなふうトラブルになったのか、ていねいに説明をしてくださるので、心配せずに過ごせています。また、この年齢に多いトラブルを事前に教えてくださるので心がまえができます」「トラブルに気づけていないこともあります。気づいて余裕があったときは、両者の言い分を聞いて、仲裁をしてくれます」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	51	7	0	0
<p>「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が12.1%でした。 自由意見には、「子ども同士のトラブルの際にも、各々に寄り添って対応をしていただいていると思います」「子どもの様子を毎日、連絡帳や口頭で伝えてくださるので、安心して預けられます。保育士の話から、子どもがどんなことに挑戦をしているのか、知ることができ、家でも実践するきっかけになっています」「子どもの意見を尊重して遊ぶ内容や公園遊びをしていただいていると思います」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	50	4	1	3
<p>「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が1.7%、「無回答・非該当」が5.2%でした。 自由意見には、「デリケートな話のときは、別室に案内をしていただけます」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	50	8	0	0
<p>「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が13.8%でした。 自由意見には、「アプリなどの案内が、充実しています」「懇談会で活動目標やそれに向けて、どんな配慮をしていくのか、明確にしてください。家庭での過ごし方も、工夫をするきっかけになっています」「連絡帳アプリの記載がとてもていねいで、保育内容が伝わりやすいです」「日頃の様子など、アプリの写真で確認でき、活動の様子が見られることは、とても良いです」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	44	11	1	2
<p>「はい」が75.9%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が1.7%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「こちらの不安を感じとって、ていねいに相談にのってくださいたり、動いてくださったりしていただけます」「園での利用者アンケートからあがった声への対応が、早いことが嬉しかったです。すぐに対応をしていただけて、とても信頼できます」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	27	20	9	2
<p>「はい」が46.6%、「どちらともいえない」が34.5%、「いいえ」が15.5%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「入園時に説明がありました」などの声がありました。</p>				